

富士フィルム IMAGICA と業務提携 映像業界向けデータアーカイブサービスを強化

両社の強みを活かした映像作品のデジタルデータ長期保管サービスを本日より提供開始！

平成 26 年 8 月 18 日

富士フィルム株式会社(社長:中嶋 成博)は、株式会社 IMAGICA(社長:藤川 幸廣)と、映像業界向けデータアーカイブ分野において業務提携するパートナー契約を締結しました。富士フィルムは、映画やテレビ番組など、映像作品のデジタルデータを長期保管するサービスを、IMAGICA を通して映像業界向けに本日より提供します。

昨今、デジタルデバイスの普及に伴い、企業や大学、研究機関などが管理するデータの容量は爆発的に増加しています。中でも映像業界では、4K^{※1} 映像の試験放送が開始されるなど、映像作品の高画質化が進み、データの大容量化が特に加速しています。また、過去にフィルムで撮影した映画作品をフィルムの状態に応じて修復し、デジタル化して撮影当時の映像に復元し、後世まで美しく残す取り組みも進んでいます。それに伴い、大容量の映像作品のデジタルデータを効率的に長期保管したいというニーズが高まっています。

このような市場背景の中、富士フィルムは、映像作品や企業の研究データなど長期保管が必要な貴重なデータをお客様からお預かりし、自社のコンピュータ用磁気テープ「LTO Ultrium 6 データカートリッジ^{※2}」に記録して長期保管するデータアーカイブサービス「d:ternity」(ディターニティ)を今年 4 月より開始しました。本サービスは、記録媒体に常時通電の必要がない磁気テープシステムを使用することで、HDD を使用した場合に比べて、コスト優位性のある^{※3} サービス提供を可能としました。また、富士フィルムの「LTO Ultrium 6 データカートリッジ」は、磁気特性・長期保存性に優れた独自の「バリウムフェライト(BaFe)磁性体」を用いており、長期保存後も、安定してデータを読み出すことができます。

IMAGICA は、映像技術サービスのリーディングカンパニーとして、最新の 4K 映像作品をはじめとするポストプロダクション業務^{※4}を行っています。また、過去にフィルムで撮影された映画作品をフィルムの状態に応じて修復し、デジタル変換して復元することで、作品を利活用したり保存するサービスを提供しています。(IMAGICA の映像アーカイブ事業についてはこちら:<http://www.imagica-archiving.com/>)

今回の業務提携によって、お客様は、IMAGICA に撮影・編集などを依頼した高画質・大容量の 4K 作品のデータや、復元を依頼した過去のフィルム作品のデータを、富士フィルムのデータアーカイブサービス「d:ternity」で長期保管することが可能になり、映像作品の一連のライフサイクルにおいて、より便利にサービスをご利用いただけるようになります。

富士フィルムは、貴重な文化資源である映像作品を人類の大切な財産であると考え、最新のデジタル映像作品から過去のフィルム作品まで、映像業界の信頼と幅広いニーズにお応えする最適なサービス、ソリューションを提供していきます。

※1 フルハイビジョンの 4 倍の解像度を持つ映像規格。

※2 LTO は HP 社、IBM 社、Quantum 社が共同策定した磁気テープ記憶装置の規格。Linear Tape-Open、LTO、LTO ロゴ、Ultrium および Ultrium ロゴは、HP 社、IBM 社および Quantum 社の米国およびその他の国における登録商標です。

※3 LTO システムで 28PB(ペタバイト)のデータを 12 年間保管した場合の、初期投資やメンテナンス費用、消費電力など全てを含めたコストは HDD の約 26 分の 1(米調査会社 Clipper Group 調べ)

※4 映像や音楽の編集、特殊な視覚効果の合成など、映像作品の撮影終了後に行う作業の総称。

本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

報道関係	コーポレートコミュニケーション部	TEL 03-6271-2000
お客様	記録メディア事業部	TEL 03-6271-2088